

「天使の羊飼いへの御告げ」

2022年12月28日

天使は言った。「恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。（ルカ福音書2：10～11）

すると、突然、天の大軍が現れ、この天使と共に神を賛美して言った。「いと高き所には栄光、神にあれ / 地には平和、御心に適う人にあれ。」（ルカ福音書2：13～14）

羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の告げたとおりだったので、神を崇め、賛美しながら帰って行った。（ルカ福音書2：20）

「さて、その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。」
イスラエルの父と言われたアブラハムも、最も尊敬されたダビデ王も羊飼いであった。牧羊民族であったイスラエルでは、羊飼いは誇り高い職業であった。ところが、主イエスの時代には、羊飼いは軽蔑される職業になっていた。生き物を飼う羊飼いは安息日の礼拝を守れない、律法順守の生活ができないという理由で、蔑まれた職業になったのである。彼らは人間として扱われず、住民登録の対象外の貧しい者とされていた。その羊飼いたちが羊を野獣から守るため、夜っぴて野宿をしていた。すると、彼らに天使が現れ、神の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は、「恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。今日、ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」と告げた。救い主キリストの降誕という最も喜ばしい御告げは最も蔑まれていた羊飼いたちに真っ先に伝えられている。天使は更に、「あなたがたは、産着にくるまって飼葉桶に寝ている乳飲み子を見つける。これがあなたがたへのしるしである」と告げた。

すると突然、天の大軍が現れ、天使と共に神を賛美して、「いと高き所には栄光、神にあれ / 地には平和、御心に適う人にあれ」との歌声が響き渡った。夜空一面が輝く神の栄光で照らし出され、天使の大賛美が歌われた。羊飼いたちは茫然として、空を見上げる。救い主の降誕は高き天では神に栄光が現わされ、地にでは平和が実現することである。

天使たちが救い主の降誕を告げた後、離れて去って行った。羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行って、主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして、急いで行って見ると、マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝ている乳飲み子を探し当てた。彼らは、見聞きしたことが全て、天使のみ告げ通りだったので、神を崇め、賛美しながら帰って行った。羊飼いたちは、天使から告げられたこと、乳飲み子イエスにまみえ、拝したことなどを人々に知らせた。聞いた者たちは、羊飼いたちの話をも不思議に思った。マリアは羊飼いたちの話を中心に深く留め、思い巡らした。マリアは思慮深い女性で、この出来事を覚えて、幼子イエスの養育に畏れをもって携わったに違いない。8日目に割礼の日を迎え、幼子は天使が命名するように告げた名「イエス」と名付けられた。

著者ルカは、キリストの降誕は、主の天使が、羊飼いたちに最初に告げ知らせたと記している。羊飼いたちが最初のキリスト礼拝・クリスマスに与ったと書いている。これは、失われた者、捨て置かれた者を探し出す主イエスの愛の生涯の先取りである。クリスマス最大のメッセージは「天に栄光、地に平和」で、これを信じて生きることが、キリスト者に生まれ変わるということである。